

行政視察報告

総務企画委員会

本委員会では、「収益事業の売上向上について」を所管事務調査事項としている。売上向上策について考えるうえで、ボートレースについての知見を深めることが重要であるため、選手、審判員、検査員の養成機関である「ボートレーサー養成所」の視察を決定したほか、繁華街から近い都市型のボートレース場であり、パーク化を推進している「ボートレース福岡」の売上向上の施策や施設改善等についても視察することとした。

視察地 ボートレーサー養成所（福岡県柳川市大和町大坪54-1）

ボートレース福岡（福岡県福岡市中央区那の津1-7-5）

視察期日 令和8年1月6日（火）～7日（水）

視察事項 選手の育成について、収益事業の売上向上について

参加者 （委員長）阿部 悅博（副委員長）鴻井 伸二

（委員）中野 芳則、茂木 亮輔、みねざき 拓実、

目黒 えり、山崎 哲男、山崎 勝

（随行…大島調査係長）

【ボートレーサー養成所】

1 養成所概要

ボートレーサー養成所は、日本モーターボート競走会が運営する選手、審判員、検査員の養成機関である。以前は山梨県の本栖研修所で昭和42年から選手の育成を行っていたが、増水や渇水などの自然環境の影響を受けやすく、国定公園に位置づけられていたため、レース場にあるような空中線などの水上施設が設置できなかつた。そこで、福岡県柳川市に研修所ごと移転し、平成13年3月から養成訓練を新たに開始した。以後25年間で約1,300名が養成訓練を修了し、現在、選手として活躍している。

2 訓練概要

選手の養成訓練は1年間となっている。定期的な試験、後半になると、レース形式の模擬レースやリーグ戦を行い、1つ1つをクリアしていかなければいけない。

入所から3か月目までの基礎課程では、操縦



については単独の基本旋回を中心に、整備についてはボートへのモーターの装着、計測、モーターの分解組立などを学び、ボートレースの仕組みやルールの理解に努めることになっている。

4か月目から7か月目までの応用課程においては、操縦では2艇、3艇による複数での旋回、スタート練習、整備では、性能向上整備など実戦に入る前の応用を学ぶ。これらをクリアすると実戦課程となるが、模擬レースなど実戦に近い操縦や現役の選手を養成所に招いての技術指導、実際のレース場を借用させてもらい現地訓練なども行っている。最終的には修了して、国家資格を取得する試験を受けて合格すれば晴れてボートレーサーとして選手登録されデビューとなる。

選手以外にも、審判員と検査員の養成も行っている。モーターボート競走会の新人職員として入社し、ボートレーサー養成所で10か月間、柳川市内の借上げ社宅から通いながら、選手と同様に訓練を行っている。最終的には審判員、検査員としての国家資格を取得して、全国のレース場で競技に携わることになる。

また、現役に選手については、年1回競走の健全化や技術の向上を図るために定期訓練を実施している。全選手がこの養成所を訪れ、2泊3日の訓練を受けている。

3 訓練生の1日

起床時刻は6時で、その後、人員および体調の確認のために点呼を行っている。

7時より朝食、8時より課業開始となっている。課業はボートの操縦が中心となるが、その他にもボートモーターの整備や関係法規などの関係する知識の習得を行っている。12時の昼食後、13時から17時まで引き続き課業が続き、17時に夕食、その後、自習を19時まで行い、21時までの2時間が入浴と自由時間となっている。21時からは掃除、21時30分には夜の点呼、人員確認を行い、消灯は22時となっている。このような決められたスケジュールに基づいて1日を過ごしている。

年間の訓練については、訓練生1人あたり、乗艇時間は160時間、スタート練習は1,200本、模擬レースは200レースの目標を設定している。

4 訓練生の1年

入所から修了まで、訓練だけでなく、社会人としてのテーブルマナー講習や応急処置法の習得、献血への協力なども行っている。また、1年間のうち、夏季休暇と冬季休暇がそれぞれ10日間程ある。それ以外の休みは日曜日で、養成所内で過ごすこととなっている。

5 施設について

平成10年の10月に土木工事を開始し、2年5か月の工期を要し、1号館と水面の施設を設置した。竣工は平成13年の2月、翌月3月より使用を開始した。当初は1号館のみであったが、平成17年の2月に選手の定期訓練用の施設として、2号館が竣工した。総工費は1号館と水面施設で約62億円、2号館が約12億円で全体で約74億円である。総敷地面積は約40万m²で、ディズニーシーやユニバーサルスタジオジャパンと同じぐらいである。操縦訓練のための競走水面は2水面あり、第1競走水面は縦520m、横200m、第2水面はやや小さく、縦480m、横140mで、ともに水深は約2mで、水は淡水である。この水を有明海に放出すると漁業関係に影響を与えるため、敷地内に独自の水処理施設を設け、浄化プラントで水を浄化し競走水面に戻すという循環作業を行っている。

訓練生が生活している建物は1号館となっており、23室、163名を収容できる。1室あたり6名で寝泊りしている。現役の選手が定期訓練で使用する2号館は、10室、100名収容で1部屋あたり10名となっている。

モーターの整備は整備棟、審判関係の訓練は審判棟があり、全国のボートレース場と同等の施設、設備を使用している。

現在、選手の訓練生60名、審判員、検査員の訓練生19名がここで訓練を行っている。訓練を指導する教官は日本モーターボート競走会の職員であり、定期的な人事異動で、東京六本木の本部や各レース場の支部などから養成場に赴任して勤務している。また、主に、実技面の指導には、選手を引退して教官となった方もおり、現在3名の実技教官が在籍している。

約1,000名以上の応募者の中から20倍もの倍率で入所する訓練生であるが、慣れる前に見切りを付けて自主退所する訓練生も一定数いる。令和7年10月に50名が入所した139期生は、ボートに乗る前に5~6名が自主退所し、2か月目の最初の試験を受ける前の段階で40名程度になっていた。

人となじめなかつたり、養成所での生活を続けることが我慢できず見切りをつけていくようである。訓練の過渡期には、スポーツ心理学の先生などの外部の方に来ていただき、個人面談を行うなどメンタルケアも行っているとのことであった。





【1号館・居所】



【1号館・食堂】



【1号館・トレーニングルーム】



【1号館・整備場】



【1号館・計測室】



【第1水面】



【第2水面】



【2号棟・居所】



【2号棟・講堂】



【2号棟・展示ホール】



【ボートレース福岡】

1 ボートレース福岡の概要

ボートレース福岡は、福岡市の中心繁華街である天神から徒歩でわずか10分と近い都市型のボートレース場である。那珂川の河口に位置していて1マークは那珂川の川面に半分近く張り出しているため、風向き、風力、潮の干満によってうねりが発生することが特徴である。



(1) 施行者…福岡市、福岡都市圏広域行政事業組合

(2) 設置年月日…昭和28年8月13日

(3) 総敷地面積…90,497m² (水面面積82,429m²)

(4) 収容人員…20,210人 (客席数3,088席)

(5) 令和7年度開催予定日数

192日 (内訳は福岡市168日、福岡都市圏広域行政事業組合24日)

(6) 令和7年度場間場外発売予定日数

本場が225日、外向発売所（ペラボート福岡）が355日

2 外向発売所（ペラボート福岡）

(1) 収容人員…約1,250人

(2) 営業時間 7時30分～21時00分

(3) ペラボート福岡の売上

区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度（予算）
営業日数(日)	352	357	356	358	355
売上(百万円)	12,167	11,553	12,288	12,874	12,449
平均/日(百万円)	34.6	32.4	34.5	36.0	35.1

※1日平均で3,000万円以上の売上があり、重要な収益となっている。

3 一般会計への繰出金

現状では、毎年度平均で40億円を繰出しており、令和7年度も40億円の繰出しが予定している。開設以来の一般会計への繰出金累計額は約3,032億円となっており、繰出金の使途は、学校などの文教施設が半分近くを占めており、他に道路橋りょう等整備事業、河川水路改良等事業などに活用されている。

4 ボートレースパーク化の推進

地域貢献や新規顧客の獲得を図るためボートレースパーク化を推進している。

元々は駐車場であった遊休地約9,100m²に、スケートボードパークを中心に、イベント広場、にぎわい施設を一体で整備し、令和8年10月オープン予定。

設計、施工、運営を一括で民間事業者に委託するD B O方式で整備。

事業費は2,341,900千円で設計施工、維持管理および運営費（R6～28年度）

(1) スケートボードパーク

- ・全天候型の屋内施設（約3,000m²、コンクリート仕様）
- ・国際大会などの大規模大会が開催可能な仕様

(2) イベント広場

- ・天然芝の広場
- ・遊具、スポーツ設備などを設置

(3) にぎわい施設

- ・民間事業者資金による建物の整備



5 質問事項

(1) 売上向上策の推進について

⇒他場との売上競合が少なくなる時間帯でのサマータイムレースを年間100日程度開催。

⇒公式のユーチューブチャンネルで予想番組を生配信。

⇒広域発売を強化し、他場で発売してもらえるよう営業活動を強化。

(2) 損益分岐点の改善について

⇒集客を増やす取組や広域発売の強化による売上の増と経費の削減に取り組んでいる。

(3) 施設・設備の改善について

⇒スケートボードパークを中心としたパーク化の推進。

中央スタンドの外壁塗装、中央スタンド指定席のリニューアル工事を行っており、令和9年4月から新しくなる。

(4) ファン獲得の取組について

⇒土曜日、日曜日は2,500人から3,000人の来場があり、客層の若い人が多いので、人気タレントなどのトークショーや、芝の広場への遊具の臨時的な設置なども行っている。

(5) インバウンドの来場促進の取組について

⇒大きなタンカーやクルーズ船が来ることがある。多言語版のガイドブックの設置と、今年度から（公財）福岡観光コンベンションビューローと連携し、インバウンド戦略策定の会議を行っているところである。

(6) 場内の食事処の取組について

⇒1階と2階にフードコートがあり、3階にレストランがある。

⇒業者は一般公募で選定している。東スタンドの3階のレストランは寿司屋をやっていた方が、65歳を越え昼間の仕事がしたいということで来ていただきお客様も増えているとのこと。

(7) ギャンブル依存症対策について

⇒基本的には業界の取組の中で実施しているが、相談窓口の設置と定期的に啓発グッズを年2回ぐらい配布している。令和7年度も約3,000人に配布した。

(8) 年度別売上額について

⇒SG競走やプレミアムGⅠ競走の有無が大きく影響する。来年度はSG競走等がないため厳しいことが予想される。

(9) ナイターの検討は

⇒1マークが川の中にあり、照明設備を立てるのが難しいことや、地元の方等の調整があるため検討もしていない。

(10)施設の改善の目的は売上向上につながるとの考え方でやっているか

⇒都市型のボートレース場という特性を活かすため、出来るだけ来場者を増やして、場内の売上を向上させたい考えがある。利益率もいいので力を入れている。



【イベントホール】

【視察を終えて】

ボートレーサー養成所では、ボートの操縦技術を身に付けるだけではなく「礼と節」を重んじ、一般社会人としての素養を備えた人格形成を主眼としてしているとのことであった。視察の際に見かけた養成員も礼儀正しくキビキビ行動しており、その一端を垣間見ることができた。また、審判員や検査員の育成については、以前は施設内で一緒に寝泊りしていたところを借上施設からの通いの勤務とし、今年度からは養成期間を1年から10か月に短縮するなど、時代に合わせて変更を行っていることであった。2026年のボートレースのCMでは、ボートレーサー養成所の教官が主役となっているなど、今後はボートレーサー養成所も注目されることと思われる。スター選手の存在によってレースの売上が大きく左右するため、選手の育成機関であるボートレーサー養成所は、ボートレース事業における重要な施設であることを再認識したところである。今回の視察では、選手、審判員、検査員の育成についての説明を受けるとともに、充実した設備や訓練生の乗艇訓練の様子も見学し、ボートレースについての知見を深めることができ、大変有意義であった。

ボートレース福岡は、中心繁華街から近い都市型のボートレース場という特性を活かし敷地内売上の向上を図るため、本場の入場者を増やすことに力を入れているとのことであった。施設も視察させていただいたが、全体的に清潔感あり、魅力的な施設であった。さらに現在も、令和8年10月供用開始予定の全天候型のスケートボードパークを中心とした大規模なパーク化（複合施設化）事業や、令和9年4月完成予定の中央スタンドのリニューアル工事などを進めており、今後の完成が楽しみである。

一般会計への繰出金については、開設以来の累計では3,000億円を越え、毎年平均で40億円を繰出しており、市の財政へ大きく寄与していることが伺い知れた。

インバウンドの来場促進についても、多言語版のガイドブックの設置やインバウンド戦略策定の会議を（公財）福岡観光コンベンションビューローと連携し開始するなどしており、今後の新規顧客の獲得には重要な取組であると感じた。

今回、行政視察で伺ったボートレーサー養成所、ボートレース福岡では、それぞれの立場でボートレース事業の発展に寄与されており、関係者の皆様の日頃の御努力に感謝申し上げる。

ボートレース多摩川においても、ファン獲得や売上向上に御尽力されているが、全国のボートレース場の様々な取組を参考にしていただき、更に魅力あるボートレース場となるよう、当委員会においても引き続き調査研究し、ボートレース事業と一緒に盛り上げていきたい。

（総務企画委員長 阿部 悅博）